

リーディングスキルテストの視点に基づく授業改善 5

主体的・対話的で深い学びの実現に向けては、児童生徒の汎用的読解力を育成していくことが重要となります。

これまでの本市での研究において、RSTの数値は県学調の結果とも相関関係にあることが明らかになっています。ここでは、RSTの各項目についてと授業との関連について要点を示します。詳細については下記のQRコードからこれまでに掲載した授業改善のポイントを確認し、授業改善を進めましょう。

汎用的読解力…理科、算数・数学など、全ての教科等に求められる、文章に書いてある事実を正確に読み取る力。

RST各項目

◆係り受け解析(DEP)

「主語」と「述語」や「修飾語」と「被修飾語」、「目的語」など文の基本構造を把握する力を示す項目。

◆照応解決(ANA)

代名詞などが指す内容や省略された「主語」を正確に認識する力を示す項目。

授業との関連

▶教科書の本文や問題文などを音読・視写する

国語だけでなく、算数・数学や理科、社会といった各教科等で、教科書を音読したり、教科書に記載の説明や定義などを視写したりすることで、正しい理解につながります。

▶主語や指示語が指す内容を確認する

主語は何か、指示語が指す内容は何かなどを確認することで、正しい理解につながります。

【授業改善につながる児童生徒への発問の例】

「教科書の～は誰が行ったことですか。」

「教科書の『その特徴』とは、どんな特徴ですか。」

「〇〇が行ったこととして教科書にはどんなことが書かれていますか。」



係り受け解析(DEP)、照応解決(ANA)はRSTの6項目の中でも汎用的読解力の基本となる項目です。児童生徒に対して、教科書の言葉を補う発問をしたり、正しく理解できているか確認したりすることで児童生徒の正確な理解を促します。また、教師が2つの項目に留意して説明や指示を行うことで、伝わりやすい的確な説明や指示につながります。

他の項目についても、下記の説明や例を参照し、授業改善や児童生徒の汎用的読解力の向上につなげましょう。

◆同義文判定(PARA)

二つの文が同義(同じ意味)であるかを判断する力を示す項目。

◆推論(INF)

基本的な知識と常識から論理的な判断をしたり、これまで学習したことから考えたりする力を示す項目。

▶根拠をもとに、考えを表す

定義や教科書の本文など根拠をもとに正しいか考えたり、自分の考えをもったりすることで、根拠に基づいた考え方を育成することにつながります。

▶他者の意見と比較し、同じ内容か考える

話し合いなどの時に、自分の意見と相手の意見が同じ内容か考え、その理由を言葉にして表すことで、根拠に基づいて判断する力の育成につながります。

▶課題に対して、既習事項から考える

課題に対して、今までの内容がどう関係するか考えることで、既習事項から論理的に考える力の育成につながります。

▶反例を考える

反例(定義などに当てはまらない例)を考えることで、同じ内容であるかや回答が正しいかなどを正確に判断する力の育成につながります。

【授業改善につながる児童生徒への発問の例】

「〇〇さんの意見で～という言葉が出てきましたが、他の表現をした人はいますか。」

「教科書では、どのように説明されていますか。」

「二人は同じような意見だけど、そう考えた理由や根拠になった教科書の部分も同じか確認してみよう。」
(児童生徒の話し合いへの介入)

◆具体例同定(INSTd)

辞書に表された定義などからそれに当たる具体例を認識する力を示す項目。

▶新出語句やわからない言葉を調べる

新しく学んだ学習用語やわからない言葉などを辞書やインターネット等で調べることで、調べる習慣が身に付き、あいまいな理解にせず、正確な理解につながります。

▶自分の言葉で表現したり、具体例を考えたりする

学習の振り返りなどの場面で、学習した定義などについて自分の言葉で表現したり、それに該当する具体例を考えたりすることで、正しい理解や学習内容を活用する力の育成につながります。

【授業改善につながる児童生徒への発問の例】

「教科書の〇〇はどんな意味ですか。」「辞書ではどのように書いてありますか。」

「この単元で学んだことやわかったことを書いてまとめましょう。」

「今回学習した〇〇について、具体例を考えてみましょう。」

